

たきた敏幸県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

総務防災常任委員会

政治手腕評価され 2度目の委員長に

県議会随一の論客として注目を集めている
印西市選出の滝田敏幸（たきた・としゆき）
県議は10月8日、本会議で通算15度目の質問
戦に登壇。北総鉄道問題や国指定廃棄物一時
保管など、県政の重要課題について執行部と
質疑を行いました。

滝田議員 北総鉄道の運賃値下げは、鉄道会社とのぎりぎりの交渉の結果として、平成22年7月に実現したが、5年間の合意期間が終了する平成26年度末までは、残り1年半余りに迫っている。

そのような中、印西・白井両市で構成する北総鉄道運賃問題対策協議会が法律事務所依頼した調査報告書に寄れば、補助金なしで

の運賃値下げは十分可能との結論が示されたとの新聞報道があった。
一方で北総鉄道は、合意に基づく現行の値下げ運賃の維持には、自治体の補助金支出の継続が不可欠であると主張している。

今後、両者の交渉が難航、決裂した場合、最終的には北総鉄道側が元の運賃水準に戻すという決断をする可能性も否定できない。その

総合企画部長 鉄道事業法では、鉄道事業者は運賃の上限を定めて国土交通大臣に認可を申請し、大臣が必要な審査を行った上で認可することとなっています。

また、上限運賃の範囲内で運賃を変更するときは国土交通大臣への届出だけでなく、北総鉄道は平成22年7月の値下げの際に上限運賃を変更していないため、認可は不要であると考えられます。

また、これまでの政治手腕が高く評価され、
2期目ながら県議会最重要ポスト、総務防災常
任委員長に選任されました。9月には就任早々
に発生した野田市竜巻被害、台風26号被害で
は迅速な現地調査を実施。本県防災及び危機
管理力向上のための提言を行ないました。

9月県議会一般質問 印西市特集



北総鉄道運賃問題などを質問する滝田敏幸県議

北総線運賃

補助金ないと元の水準に

北総側と地元報告書の見解相反

滝田議員
今後、北
総鉄道が元
の運賃水準
に戻す可能
性について、
県はどう考
えるのか。

総合企画部長 北総鉄道の運賃問題については異なる立場から様々な意見があり、調査報告書は、印西市、白井市のこれまでの主張に沿った内容のものであると認識しています。

滝田議員 関係者の協議を進展させるためには、どのようなことが重要だと考えるのか。

総合企画部長 北総鉄道は、従来より、運賃値下げの継続は、自治体の補助金支出が前提であると主張しており、平成27年度以降の補助金支出が行われない場合、元の運賃水準に戻る可能性も否定できないものと考えています。

総合企画部長 今回、調査報告書が出されたことから、まずは調査を委託した印西市、白井市が、他の沿

線市や北総鉄道にその内容を説明する必要があると考えています。

再質問
滝田議員 印西市、白井市で構成する北総線運賃問題対策協議会が、法律事務所

再質問
滝田議員 調査報告書を皮切りに、印西市、白井市以外の自治体など他の関係者の意見を聞く協議の場が必要と考えるかどうか。

総合企画部長 今後の協議を進めるにあたっては、利用者にとって最も望ましい結果となることを第一において、沿線6市と北総鉄道が、真摯に話し合いを行うことが重要だと考えます。

たきた敏幸県政報告会

北総政経フォーラム

知の巨人
佐藤 優、来たる!

11/24 (日) 18:15 ~

印西市文化ホール 多目的室

「新・帝国主義とは何か」
～印西から日本と世界を読み解く～



会費制

問い合わせ・参加申込み 月～金・10時～17時
滝田事務所・佐藤

放射線セミナー

札幌医科大学教授
(放射線防護学)

高田純博士、来たる!

12/8 (日) 10:00 ~

印西市サザンプラザ 多目的室

「世界の核災害と福島、
及び千葉県のホットスポット」



無料

問い合わせ・参加申込み 月～金・10時～17時
滝田事務所・佐藤

●千葉県と印西市についてのご意見、ご要望をお聞かせください。

たきた敏幸事務所

〒270-1326
印西市木下1521-125
TEL.0476(37)4173



総務防災常任委員長として、野田市竜巻被害の現地調査をいち早く行った
滝田敏幸県議（中央）

放射線に関する講習会 県民1,000人が参加

滝田議員 これまで県が
開催した「放射線に関する
講習会」について、県とし
てどう評価しているのか。
知事 「放射線に関する
講習会」は、県民の皆様
に放射線に対する理解を深

めていただくことを目的と
して、昨年度から計12回
開催し、延べ1000名
近くの県民の方が参加し
ました。
参加者の反応は好評で
あり、特に、先月の講習

会については、「放射性物質
の基礎的な知識が得られ
た」、「科学的根拠に基づ
て判断することの重要性が
理解できた」、「生活に密接
な話で分かりやすかった」
など、参加者の約9割の

方々から高い評価をいただ
いており、県としても、た
いへん意義のある事業と考
えています。
滝田議員 放射性物質
に関する正しい知識の普及
のため、今後も東葛飾地
域などにおいて講習会を継
続的に開催すべきと考える
がどうか。
知事 これまでの講習会
に参加された方々からも、

継続した開催を求める声
が多数寄せられており、県
としても、引き続き開催し
ていきたいと考えています。
特に、東葛飾地域を含
む県北西部については、放
射線に対する県民の関心が
高い地域でもあり、より多
くの方々に参加していただ
けるよう、場所や時期につ
いて十分検討し、開催に向
けて準備を進めていきます。

再質問

滝田議員 空
間放射線量が減

保管前と変化なし

滝田議員 ごみ焼却灰の
一時保管についてだが、私
は県議会で、放射能問題は
感情論ではなく、理性をも
って対応することが重要と
主張してきた。現在、私の
地元である手賀沼流域下水
道終末処理場において、ご
み焼却灰の一時保管が行わ
れているが、地元の皆様
には其助の精神をもって理
性的に対応していただいて
おり、大変ありがたく思っ
ている。

今回の放射能問題の対応
にあたっては、科学的知見
に基づく正しい知識を、粘
り強く伝えていくことが必
要であり、現在、国において
検討が進められている指定
廃棄物の最終処分場におい
ても、まったく同様である。
しかしながら、一部には
今だに放射能に対する不安
を抱いている住民の方もお
られることから、県におい
ても不安解消のため、新た
な取り組みを行うと聞いて
いる。
そこだろうか。放射
性物質を含むごみ焼却灰の
一時保管における安全確保
の状況はどのようになっ
ているのか。
環境生活部長 県では、
一時保管にあたって、24
時間体制で管理を行うこと
も、空間放射線量を定期

的に測定・確認し、公表を
行うなど安全確保に万全を
期しております。
一時保管場所の敷地境界
4地点及び周辺地域10地
点における空間放射線量は、
一時保管開始前と同程度で
あり、一時保管による影響は
ないものと考えております。
一方、周辺住民の方々に
は、依然として不安を感じ
ている方もいることから、

モニタリングポスト 測定の空間放射線 2年前と比べ半減

滝田議員 県内のモニタ
リングポストで測定してい
る空間放射線量は、どのよ
うに推移しているのか。
環境生活部長 県では、
福島第一原発事故以降、従

来から設置されていた市原
市岩崎西局に加え、7基の
モニタリングポストを設置
し、計8箇所県内の空間
放射線量を測定しています。
これらのモニタリングポ
ストにおける最近の空間放
射線量は、いずれも減少傾向
にあり、2年前の数値と比べ
て、月平均値で最大49パー
セント減少しております。
なお、平成25年9月に
おける空間放射線量は、毎
時0.031から0.12
6マイクロシーベルトであ
り、これは原発事故以前の
国内の測定結果とほぼ同水
準です。

より一層の不安解消を図る
ため、これまでの安全対策
に加え、保管容器の開口部
を密閉する追加措置を行う
こととしております。

今後とも安全確保には万
全を期し、周辺住民の皆様
方の不安の払しょく風評
被害の防止に努めてまいり
ます。

要望
滝田議員 指定廃
棄物の最終処分場設
置にあたっては、県行政
、県議会、県民が一体とな
って国の事業に協力してい
くことが大事と考えている。

少ししている要因について
どのように分析しているの
か。
環境生活部長 現在の空
間放射線量については、地
表に沈着した放射性セシウ
ムの影響を受けているもの
と考えています。
放射性物質は半減期を有
し、時間とともに減少して
いきます。特に放射性セシ
ウムのうち、134の半減
期は約2年と短いことが、
空間放射線量減少の大きな
要因となっているのではな
いかと考えています。

千葉県においても、農産
物の風評被害対策や、焼却
灰の最終処分場の設置など、
大きな問題が残されており、
今後、ますます放射線リス
クに関する県の情報発信が
大事になると考える。
ぜひ、放射線リスクの専
門家をアドバイザーとして
迎えるよう提案する。

放射線リスク アドバイザー 設置検討を

要望
滝田議員 県が情
報発信の重要性を十
分に認識していることは理
解できたが、一歩進んで、
放射線リスクアドバイザー
の設置を検討してほしい。

福島県では、原発事故後、
放射線医学の権威で長崎大
学医学部の山下俊一教授を
放射線リスクアドバイザー
に招いており、現在、福島
県立大学の副学長として、
専門家の立場から、県民向
けの様々な講習や検査に携
わっている。

改めて、地元対策、調整を
含め、今後、県の責任ある
対応を要望する。

たきた敏幸・PROFILE

略歴

- 1960年 印西町大森生まれ
大森小、印西中
県立我孫子高校卒
- 1982年 同志社大学卒業
- 1999年 印西市議初当選
- 2003年 印西市議再選
- 2007年 千葉県議初当選
- 2008年 印西市消防団副団長
県議会：総合企画常任
委員長
- 2010年 千葉県ラグビー協会長
- 2011年 千葉県議再選

現職

- 県議会 総務防災常任委員長
議会運営委員会委員